

文化政策へ望む

特に科学文化について

石原 純

大政翼賛会に文化部が設けられて、その部長や副部长などに衆目の上で適任と見られる諸氏が据えられたのは、何よりも慶賀すべきことである。

しかし一国の文化なるものは、いずれの国家にとっても重要事の二つであり、その内容も極めて複雑多岐に亘わたっているのであるから、これ等の諸氏の重責は恐らく絶大であることが先まず自覚されねばならないと思う。国家の緊要事として、政治や経済や国防は固もとより重大であるのは言うまでもないが、これ等が、たとえいかに完備していようと、そこにすぐれた文化を缺かくならば、その国家は殆ほとんど存立の価値を有もたないと云つてもよいとさえ考えられる。これは決して極言ではなく、寧むしろ真実であると、我々は確信している。

しかも、この見地からするならば、政治、経済、国防に関する諸政策は、それ自体が決して最後の目標なのではなく、却かえつて文化向上のための手段に外ならないと云わなくてはなるまい。

ただ遺憾なことには、文化に対するこれほどの重大な認識が今日必ずしも一般の人々に具そなわっていないように思われる多くの事実を我々は経験しないわけではないのであるが、少なくとも文化政策に携たづむる諸氏に於ては、これだけの大抱負を確保することが先まず最も肝要であると考えられる。

勿論、戦時のような特殊な状態のもとに於ては、諸種の文化が多少の抑圧を蒙ることも已むを得ないのであるが、それはどこ迄も一時的な現象と見られなくてはならないのであるし、更にここで問題としようとする科学文化の如きは、却てかような際にこそ一層昂揚せられなくてはならないのは明らかである。現に我国でも最近には種々の実用上の要求から、科学振興の聲が盛んに挙げられるようになったのは、寧ろ当然の事柄でもあると見られるが、しかし、なおそこでは単に実用にのみ捉われていて、真の科学文化に思い及ぶことは、寧ろ甚だ不足しているかの如く見える。

固より、我々に於ても科学の実用的価値を高く評価することに变りはないが、実用によつてのみ科学を尊重するのは、結局は唯物主義者に左袒する所以でしかないのであつて、真に科学文化の高邁な精神的価値を解しない所作でもある。我々としては、科学文化こそは、ひたすらに人間の合理的精神を押し進める偉大な産物であることを銘記すべきである。

これは単に自然科学の進展に対して有用であるばかりでなく、社会のあらゆる機構を合理的に向上せしめるためにも缺くことのできないものであり、この意味に於て、我々は科学文化を尊重しなくてはならないとするのである。そして、かくて科学を単に実用によつてのみではなく、その精神的価値に於て奨励することを断じて無視してはならないのであろう。

ところが近時科学振興を称える人々のなかには、真に科学のかような価値を理解することなしに、単に輿論に追随するかの如く見える嫌いさえないではないし、更に科学振興が恰も容易に実現し得るかの如く、これを甚だ安易に考えるものもあるようである。

しかし真に科学を振興するには、恐らく数十年若くはそれ以上の長期に亘る絶大な努力を必要とするのであつて、今日これを称えて直ちに明日の成果を期待する如きは抑も誤つてゐる。だからこそ我々は出来る限り速かに十分に周到な用意を以て、これに着手しなくてはならないことを痛感するのである。そしてこの意味に於て科学振興こそは、現時の文化政策の最重要事として見做されなくてはならないと思つのである。

科学振興のためには科学研究機関の充実が必要であるのは言を俟たないが、同時に優秀な科学者を養育する教育施設の重要であるのを見遁がしてはいけない。ところで現時我が国に行われている教育制度に就ては、全般的に見ても種々の問題が考えられるので、これは同じく文化政策の一部として深く省察せられなくてはならないに違いない。この点に関しては私は最近に意見を述べたのであつた（「教育制度の革新」）が、特に科学教育に於てはその内容に対して種々の改訂を必要とすべきであると考えられる。

近頃政府にあつては、文科系統の学校を理科系統のものに編成替へする意向もあるようであるが、それも固より時宜に適する事柄であるに違ひないとは云え、教育内容を適正化することは一層重要でもあると思われる。しかもこれを見遁がしては、せつかくの科学教育もその十分な効果を収め難いとも感ぜられるのである。更に科学教育としては、単に専門的なもののみではなく、それ以前の普通教育のなかで既に一応の成果を期待しなくてはいけないのであるが、ところが、これに反して今日の実情は中等学校に於て、多くの学生に却つて科学を嫌悪させてしまうような傾向がないとは云われないのである。この点は同じく文化政策から見て大いに重要視すべき処であると思われる。

一般の科学教育の一端として、近頃では科学書や科学映画などが問題とせられるようになったのは甚だ結

構であると思うが、この場合に於ては、それらの良否を出来る限り正しく判断して指導を誤らないようにすることが何よりも肝要である。

この外に、一般的施設としては科学博物館とか科学図書館などの完備が望まれるのであって、これ等の点でも我が国の現状はなお甚だ不満足であると云わなくてはならない。

従つて今後これ等の施設を増大することによつて、初めて科学教育を興すことが可能となるのであろう。科学と密接に關聯する科学的技術に就ても、今日種々の問題が我々の眼前に横わっている。

既に一切の技術を国家管理のもとに置こうとする議が進められていると伝えられるが、これと關聯しては従来の営利的經濟機構の改革がせひとも問題とされなくてはならないのであるから、現時の新体制に於てそれがいかに解決せらるべきかは、我々の凝視すべき点である。しかし何れにしても技術の國家管理は既に十分にその必要を認められているのであつて、ただ、それに対して出来る限り合理的な処置が望まれなくてはならないわけである。この問題に關しても私は別に論じたので、「科学的技術の國家管理」(参照)ここではそれ以上を省略する。

更に技術者養成のため教育機關に就ても種々の考慮を要することは、科学教育に於けると同様である。一般的に言つて、科学及び技術の教育に於ては、知識を授けること以上に、獨創性を育成することが大切なのであつて、従来の教育方法の最大の缺陷は主としてこの点を重視することの不足にあると考えられる。これは今後せひとも改めなくてはならない心髓であるに違いない。

かくて科学及び技術に關する文化政策は、すべてここに概論した根本觀念に副つて進められなくてはなら

ないと我々は考える。しかも個々の問題はそこに恐らく多種多様に現れるであろうが、我々は切に正しい立場にしっかりと足を踏みしめて、これを見失わないことを要望して已まないのである。

(昭和十五年十一月)

- 底本には、『科学のために』(科学主義工業社、一九四一(昭和十六)年一月二十五日)を使用した。
- 読みやすさのために適宜振り仮名を追加した。
- 旧漢字は新漢字に、旧かな使いは新かな使いに変更した。
- PDF化にはL^AT_EX 2_εでタイプセッティングを行い、dvi_{ps}dfmxを使用した。

科学の古典文献を電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

に収録してあります。

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、

「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。